

第8回 フェアトレードタウン国際会議 in 熊本

フェアトレード国際学生フォーラム 報告書

2014年5月13日

国際学生フォーラム班

- ・はじめに 代表あいさつ
- ・国際学生フォーラム概要
- ・発表団体 発表者紹介
- ・発表内容紹介
- ・質問シート回答
- ・個人宣言紹介
- ・学生宣言
- ・集合写真
- ・編集後記

はじめに 代表あいさつ

国際学生フォーラム

実行委員長 藤田勇樹

この度、「第8回フェアトレードタウン国際会議 in 熊本 国際学生フォーラム」を開催するにあたり、多くの方々のご理解とご協力により、無事に開催できましたことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

今回の国際学生フォーラムは「アジアにおけるフェアトレード大学の推進」がテーマでした。欧米と比べ、まだフェアトレード大学というものが認知されていないアジアにおいて、フェアトレード大学の普及は大きな課題です。しかし、日本はおろかアジアにはまだ一校も存在しないのが現状で、この運動の認知度自体の低さも一つの要因です。この運動の主役は大学生です。大学生はこの運動を推進していく主体として、大変重要な役割を担っています。

今回お越しいただいた海外の学生ゲストの取り組みを知り、また日本の学生の特色ある取り組みを発信し、お互いの活動に活かせる部分を発見できたと思います。

そして、このフォーラムをきっかけにアジアにおけるフェアトレード大学の運動が活発に日本の、そしてアジアのフェアトレード大学運動が活性化しアジアから日本からフェアトレード大学が誕生することを希望しています。

2014年5月13日

国際学生フォーラム概要

日 時 国際学生フォーラム 2014年3月27日 13:00～16:30

- 目 的
- 1) 学生によるフェアトレード運動の普及・拡大
 - 2) 日本およびアジアにおける学生のフェアトレード大学運動の活性化
 - 3) フェアトレード普及のための知識・情報収集

テーマ 「アジアにおけるフェアトレード大学（FTU）の推進」

概 要

国際学生フォーラムは3部構成で、第1部は日本の学生団体(3団体・各10分)と海外の学生(1団体と研究者1名・各30分)より、それぞれの活動の現状と実績、ユニークな取り組みなどを聞き、フェアトレードを推進するアイデアを考えるためのヒントとなるような時間とした。また各発表のあとにフリートークを設け、参加者同士の情報共有を行った。

第2部は第1部に関する質疑応答を行った。事前に配布された質問シートをもとに、ゲストに答えていただき、答えられなかった質問に関しては報告書内で回答することになっている。

第3部では個人の宣言を行う。これは個人のアクションプラン(目標)の作成で、各団体の発表や質問の内容を基に、今後自分が行っていきたいこと・行っていく事を書いてもらう。あらかじめ配った専用の用紙に書いてもらい、発表した学生団体の代表には宣言を発表してもらった。

記入していただいた宣言は模造紙にまとめ、翌日の報告会で披露した。

参加者数 53名(申込:44名、当日:9名)※主催者確認分

【国内ゲスト】

神戸国際大学 Fair*Clover 発表者：多田隼敏、岡政幸希

2009年7月発足。サークルとしてスタートし2013年度からは大学公認の部活動として登録される。出張授業やオープンキャンパスでのフェアトレードコーヒーの提供、フェアトレード認証ラベルの付いたボールを使ってのスポーツイベント、学園祭でのフェアトレードファッションショーなど開催。アジア初のフェアトレード大学を目指して活動中。

バレンタイン一揆実行委員会 発表者：住吉秀太

バレンタインシーズンに日本全国のみinnでフェアトレードチョコを買って自分も世界もハッピーにするプロジェクト。チョコレートを通じてフェアトレードの存在・意義・コンセプトを広めるとともにフェアトレードチョコを買う人を増やすことを目的としている。47都道府県大使によるPR活動などを行い、メディアにも多数取り上げられている。2015年も実施予定。

FTSN Japan 発表者：松島日奈子、江原佳菜恵

Fair Trade Student Network の略で、フェアトレードを知りたい、広めたいと考える学生を中心としたネットワーク。

途上国の貧困問題や環境問題を乗り越えるひとつの手段として、また人々がこれらの問題の根本にある社会・経済構造そのものに目を向けるひとつのきっかけとして、フェアトレードを支持し、日本におけるフェアトレードのさらなる普及を目指している。

【海外ゲスト】

Fairly Educated 《オーストラリア》

発表者：Bec Taylor

Fairly Educated はシドニー大学のクリス・ホイとヴィクトリア・ダイヤモンドによって2011年に設立された。フェアトレードを推進すると同時に活動を始めたいと考えている人々に資源やアイデアを提供することによって、公正を求めている人々を支援している。

2014年、ベック・テイラーとヘレン・ブッシュがリーダーに就任。彼らは、アデライド大学とアデライド市議会に密接に働きかけることで、オーストラリアにおけるフェアトレード運動を巻き込んでいる。

Joel F. Ariate Jr 《フィリピン》

フィリピン大学ディリマン校 第三世界研究所社会科学および哲学研究員。第三世界研究のフィリピン紙「カサリンラン」の編集者でもあり、2011年には学長賞を受賞。

【国内ゲスト】

神戸国際大学 Fair*Clover

神戸国際大学

フェアトレード推進クラブ

『Fair*Clover』

フェアトレード…

それは
途上国の生産者に
正当な価格を保証するもの。

フェアトレード商品を購入
⇒誰でも簡単に
フェアトレードに参加できる

これは
一番身近な
国際協力の一つです。



FAIR*CLOVER

2009年7月に発足。
サークルとしてスタートし、2013年度からは
大学公認の部活動として登録される。

テーマ

～趣味からつなぐ国際協力～

フェアトレード大学

~Fair Trade University~

フェアトレード大学とは？



大学全体でフェアトレードを推進していこうと
取り組んでいる大学のこと。



2003年にフェアトレード大学となった
オックスフォード・ブルックス大学を始めとし、
世界各国では現在70以上のフェアトレード
大学が存在します。



日本には1つも
フェアトレード大学は存在しません。

なぜ目指すのか…

- × 大学の知名度の向上。
- × 地域に誇れる大学を創り上げていく
きっかけにしたい。
- × 大学の受験者及び生徒数の拡大。
- × フェアトレードをはじめ
チャリティーやボランティアなどの活動に
興味を持つ学生が多くなり、学生活動の向上
または、地域貢献にも期待ができる。

FTU化

「社会貢献をしたい」などの意志を持った活動的な人間(学生)が増える。

社会やメディアから注目される。同時にフェアトレードの認知度も向上する。

(神戸国際大学の)受験者数の増加
(神戸国際大学の)生徒数の増加=資金増加

FTをはじめとするチャリティーや、地域社会、グローバル等の専門学科の設立(大学のブランド化)
⇒「フェアトレードを学ぶなら神戸国際大学！」

学生の質の向上、大学イメージの変革

引用：Fair*Clover第3期代表 今野 裕士

フェアトレード大学 認定基準

- ①FT普及を目指す大学公認の学生団体の存在。
(またはその申請を行っている)
- ②FT普及を目指したキャンペーンをキャンパス内、外で行っている。
- ③フェアトレード産品を大学側が調達する。
- ④フェアトレード産品(食品、衣類、アクセサリなど)がいずれのキャンパスでも購入可能。
- ⑤学生自治会、大学公認団体、大学管理者の三者によって5つの目標を含んだフェアトレード憲章を策定する。

引用：FTSN理事会

フェアトレード大学 認定基準

- ①FT普及を目指す大学公認の学生団体の存在。
(またはその申請を行っている)
- ②FT普及を目指したキャンペーンをキャンパス内、外で行っている。
- ③フェアトレード産品を大学側が調達する。
- ④フェアトレード産品(食品、衣類、アクセサリなど)がいずれのキャンパスでも購入可能。
- ⑤学生自治会、大学公認団体、大学管理者の三者によって5つの目標を含んだフェアトレード憲章を策定する。

引用：FTSN理事会

味覚で感じる フェアトレード



2011年の秋より約半年間月に一度カフェを運営。

商店街の空き店舗を利用。地域の活性化にも視点を置きながらフェアトレードを知ってもらう。



フリーマーケット

外部の業者から商品を取り寄せ
大学近辺で開催されるフリーマーケットに出店して、商品の委託販売を行う。



スポーツ × フェアトレード

フェアトレード認証ラベルのついたボールを使用してスポーツイベントを開催。

【協力】
バスケットボール部
バレーボール部



フェアトレードファッションショー

学園祭において
フェアトレードの
衣装を使用した
ファッションショー。

一般の学生に
モデルを依頼。



フェアトレード大学 認定基準

- ① FT普及を目指す大学公認の学生団体の存在。
(またはその申請を行っている)
- ② FT普及を目指したキャンペーンを
キャンパス内、外で行っている。
- ③ フェアトレード産品を大学側が調達する。
- ④ フェアトレード産品(食品、衣類、アクセサリなど)が
いずれのキャンパスでも購入可能。
- ⑤ 学生自治会、大学公認団体、大学管理者の三者によって
5つの目標を含んだフェアトレード憲章を策定する。

引用：FTSN理事会

オープンキャンパス

オープンキャンパスにて
フェアトレードコーヒーの無料提供。

フェアトレードの説明を
来場された高校生/保護者を対象に行う。

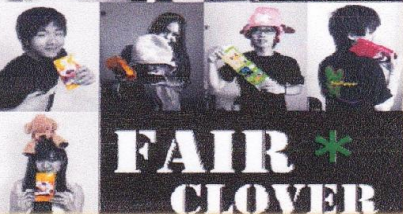


フェアトレード大学 認定基準

- ① FT普及を目指す大学公認の学生団体の存在。
(またはその申請を行っている)
- ② FT普及を目指したキャンペーンを
キャンパス内、外で行っている。
- ③ フェアトレード産品を大学側が調達する。
- ④ フェアトレード産品(食品、衣類、アクセサリなど)が
いずれのキャンパスでも購入可能。
- ⑤ 学生自治会、大学公認団体、大学管理者の三者によって
5つの目標を含んだフェアトレード憲章を策定する。

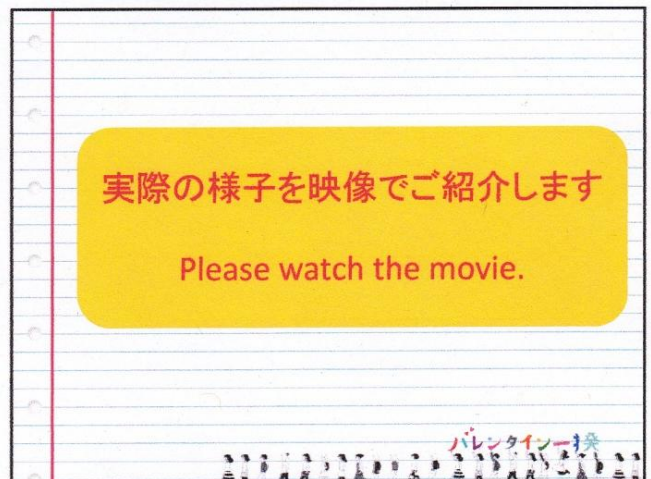
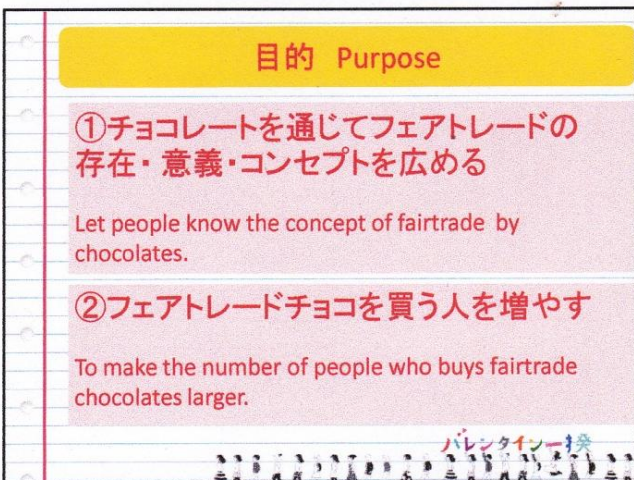
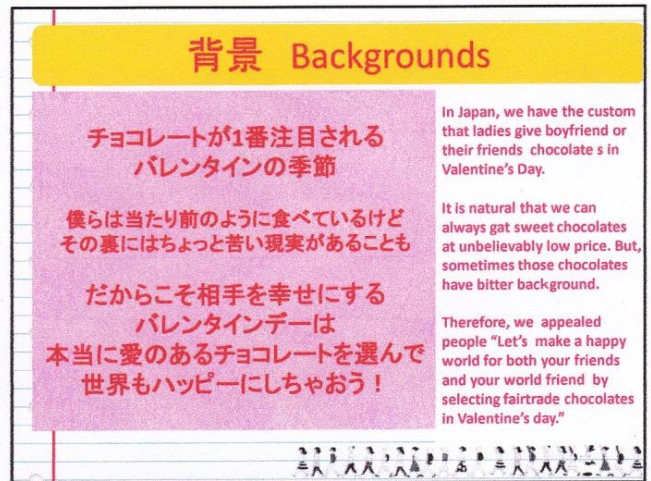
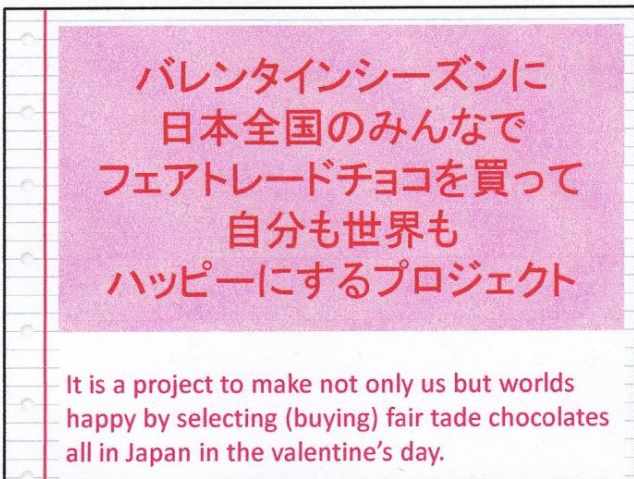
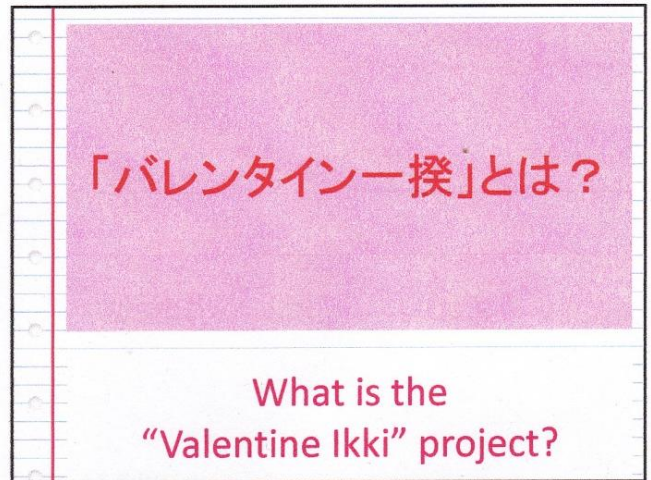
引用：FTSN理事会

GOOD
BYE,
UNFAIR
TRADE



FAIR *
CLOVER

バレンタイン一揆実行委員会



イベント Events



28回
14都道府県で開催
約680人が参加

(東京・大阪・福岡・宮城・茨城・栃木・静岡・愛知・石川・岐阜・京都・広島・熊本・沖縄)



28 times
In 14 prefectures
680 people attended

(Tokyo, Osaka, Fukuoka, Miyagi, Ibaragi, Tochigi, Shizuoka, Aichi, Ishikawa, Gifu, Kyoto, Hiroshima, Kumamoto, Okinawa)



SNS/web site



Twitter

Follower : 430
RT etc... : 1,140



Facebook

Nice! : 964
Reach : 30,603



Web page

View : 54,462



47都道府県大使 Fairtrade Ambassador



愛のある
社会を選ぶ!

in
大阪



メディア Mass Media



掲載数 : 7件 (7 medias)

- ソーシャルアクションラボ (5th Feb)
- KBS京都ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」 (7th Feb)
- 毎日新聞 (9th Feb)
- 沖縄タイムズ (9th Feb)
- 東京新聞 (10th Feb)
- 中日新聞 (10th Feb)
- オルタナS (13rd Feb)

2月9日 毎日新聞(東京版)
9th Feb Mainichi Newspaper



まとめ Conclusion

「バレンタインイッキ」は老若男女、都市部に住む人も地方に住む人も、みんなが一体となってフェアトレードを応援するプロジェクト。

フェアトレードはまだ日本では普及しているとは言いが、それでも間違いなく全国に「フェアトレードを推進・応援したい」という人がいることを忘れてはいけない。

"Valentine Ikki" is the project that whoever wants to appeal the fairtrade irrespective of sex, age, and prefecture can participate.

It is difficult to say that the fairtrade is popular in Japan. But, it is true that people who want to appeal the fairtrade lives in each prefecture, and we never forget this fact.



バレンタインイッキ

2014

ほんとうに愛のあるチョコレート

2015年も実施予定

Of course, we have a plan to do "Valenti's Ikki 2015".

<http://www.acejapan.org/valentine>

Fair Trade Student Network

日本の学生によるフェアトレード推進活動

FTSN Japan 10代目代表

松島日奈子

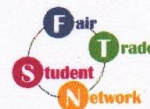
FTSN関東支部代表

江原佳菜恵



FTSNとは？

- 正式名称:フェアトレード学生ネットワーク (Fair Trade Student Network)
- 2004年設立
- フェアトレードを知りたい、広めたいと考える学生たちが繋がり、活動を応援し合うためのネットワーク組織



FTSNのミッション

- 途上国の貧困問題や環境問題を乗り越えるひとつの手段として
- 人々がこれらの根本にある社会・経済構造そのものに目を向けるひとつのきっかけとしてフェアトレードを支持し、さらなる普及を目指す



FTSNの全国ネットワーク

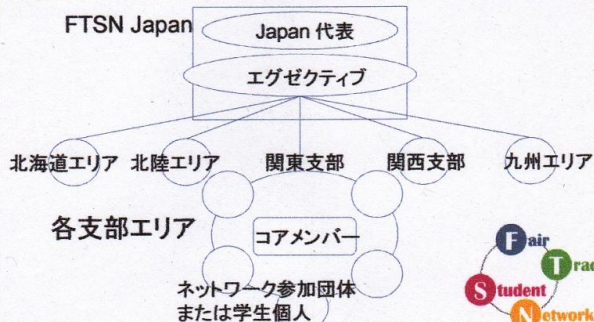
北海道エリア
北陸エリア
関東支部
関西支部
九州エリア



全国規模のネットワーク

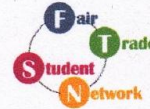


FTSNの全国ネットワーク



FTSNの主な活動

- イベント・キャンペーンの開催
- 情報の蓄積・共有・発信
- 学習会
- フェアトレード学生サミット
- 学生が自ら輸入するフェアトレード商品の販売網の拡大



フェアトレード学生サミット

- FTSN Japanが主催する全国合宿
- 毎年9月に2泊3日で開催
- 約100名の学生が全国から参加
- 全国の学生と交流を深め、互いの活動を知り、フェアトレードの更なる知識をつけ、ディスカッションやゲスト講演を通して新しい考え方を身につけることができる。

学生のフェアトレード推進活動を
より活発なものへ



第11回フェアトレード学生サミット



まちチョコ

- 市民から募集したデザインを学生がアレンジしたオリジナルパッケージのフェアトレードチョコレート。



一橋大学ラポント
2013年度のまちチョコ



FTSNの今後

- 全国規模/各支部エリアにおいてネットワークの強化・拡大
- コアメンバー・参加団体・個人が更なる成長が実現できるようなネットワークの中身の充実
- ネットワークを活かした学生目線のフェアトレード推進活動



ご清聴ありがとうございました。



【海外ゲスト】

Fairly Educated 《オーストラリア》

《導入》

私の名前はベック・テイラーです。南オーストラリアのアデレードから参りました。アデレード大学で環境科学とマネジメントを学び、昨年卒業しました。この5年間、自分の大学でフェアトレード活動を行ってきました。現在はFairly Educated（以下、FE）のリーダーを務めています。

FEはオーストラリアとニュージーランドの運動家のため、Fair Trade University（以下、FTU）になるための支援をしています。

《今日のアウトライン》

今日はオーストラリアとニュージーランドにおけるFTU活動の簡単な紹介、活動の事例、そしてFEのような組織の必要性についてお話します。

まず、FEについて、活動内容、構成員、支援方法などを紹介します。

次に、私たちの主たる活動である定例会や過去の活動についてお話します。

最後に、私たちの将来への希望を述べて、本日の発表を終えたいと思います。

今日はすべて簡単にお話しするつもりなので、みなさんの資料に詳細やサイトを載せています。後ほどご覧いただき、FEについて知っていただければと思います。

《なぜ各大学がフェアトレード活動を行わなければならないのか。》

（以下は学生からの引用です。）

(1) はじめに、正義のためにすべきことだからです。

人や環境が搾取されている不正な場（一例えば、多くの農業従事者が不当な労働環境で働いているように）を知ったとき、私たちはそれを変えるために出来ることをすべきなのです。

‘Poor farmers never have the choice of going to university’ - d’ Arcy Lunn

(2) 第二に、大学が活動をすべき場所であるためです。

大学は論理的思考力、倫理的な行動の議論をする場です。大学は学生に説いたことを実践させなければならないし、十分な教育を受けられる幸運に恵まれたからには行動に移さなければならないからです。

‘Universities should be a hub for not only ethical discussion, but about ethical action’
- Katelyn Kummer

(3) 第三に、比較的实践しやすいためです。

イギリスのすべての大学はフェアトレード活動を行っており、より多くの生産品を仕入れるなど、その活動は成長を続けています。オーストラリアではイギリスよりも一般的ではありませんが、現在でも紅茶とコーヒーが主要生産品として注目されています。オーストラリアとニュージーランドではこれらの生産品の消費量が高く、だからこそ、それらに関するキャンペーンを行うこと、また、世界中に及ぶ貧困削減に寄与する場である大学に活動を認めてもらうことが比較的容易なのです。

‘If one of Australia’s largest and most prestigious institutions can do this, every university can do it’ –Hamish McKenzie

《オーストラリア・ニュージーランドにおける FTU》

オーストラリア・ニュージーランドのフェアトレード組織がアドボカシーやサポートを通して、教会や学校、大学、フェアトレードタウンなどを支援します。

こちらのウェブサイトをご覧ください：www.fta.org.au/fair-trade-universities.html
最近 FTU ガイドラインが更新され、このサイトで閲覧することができます。各大学の置かれた状況や抱える課題は違うため、すべての大学に同じ要求をする代わりに、目標や目的を共有するというような柔軟な内容になっています。

オーストラリアの FTU は以下のことを目標に掲げています：

- 1) フェアトレード団体を創設すること
- 2) 学内でフェアトレードの活動や方針を決めるスタッフと学生の委員会を指導する
- 3) 学内のカフェやショップでフェアトレード商品（紅茶やコーヒー、チョコレートなど）を売ること
- 4) スタッフに支給する飲料や会議での飲料をフェアトレードの紅茶やコーヒーにする
- 5) 継続的なフェアトレード促進（主に5月のフェアトレード週間におけるポスターでの呼びかけ、教育会議、学内イベント、売店での販売など）
- 6) 学内において、活動する人を増やしていくこと

いかに大学にフェアトレードを認可してもらうか、学生がどのような活動しているかなどを紹介した映像や発表もあるので、ぜひ以下のサイトをご覧ください。

www.fairlyeducated.com

www.fairlyeducatedconference.com

2009年以降、オーストラリアでは8つの大学がFTUに認可されました。ニュージーランドにも1つ、独自の方法で認可を受けた大学があります。この数年でさらなるFTUが誕生することを願って

おります。

大学におけるスタッフや学生のフェアトレード活動は、総計的に見て全地域で伸びてきており、各大学にはフェアトレード活動を行う多くの学生団体が存在します。

《挑戦》

FTU を目指す活動は多くあり、世界中でよく見かけられる動きだと思えます。

以下に、主な活動をいくつか挙げます。

1. それぞれの大学がそれぞれの活動、戦略を持つこと
2. 入手手段と契約
3. フェアトレードの様々なラベルを理解すること
4. 学生やスタッフの引き継ぎ
5. 大学におけるフェアトレード活動の優先順位が低いこと
6. 認可と交渉に時間がかかること
7. 目標達成後のモチベーションの維持

《なぜFEなのか？》

クリスとビックはシドニー大学のフェアトレード活動のリーダーでした。ちょうど私が話したような挑戦を多く経験していました。彼らはかつてのフェアトレード論に疑問を抱き、オーストラリア中の活動を知るようになりました。そして、2010年にFE定例会を主催しようと決めたのです。

これはFTUの活動を結びつけるものでもありました。私はその時アデレード大学に在籍していましたが、そのときの定例会は本当に素晴らしいものでした。本当に感銘を受けましたし、多くのことを学びました。つながりを作る最高の機会でしたし、世界中からの私と同じような活動をしている人々に会うこともできました。非常にいい刺激を受けることができた定例会でした。

クリスとビックは3年間FEのリーダーを務め、フェアトレード活動促進をサポートしました。次はヘレンと私が2015年までリーダーを務めます。

《FEとは何か？》

FEは第3のフェアトレード活動を結びつけることを目的とした非営利組織です。国際的に活動を繋げることを目的とし、主にオーストラリアとニュージーランドで活動をしています。

また、FTAANZともよく活動します。www.fta.org.au

FEはフェアトレード活動のための情報やアイデア、経験を共有する場を提供します。リーダーが

管理するメールやウェブサイトなどのメディアやみんなが投稿できるフェイスブックページなどによって可能になります。

FE が既存の団体や組織の後を継ぐのではなく、それを支援するということが重要なのです。だからこそ、FE は NGO の素晴らしい働きを強化するためにここにあるのであって、活動の後を継いだり、競争したりすることには反対なのです。FTU 認証に向けて、きわめて重要な役割を担う世界中の大学で他の非営利団体とともに活動する仲間に向けています。

<http://fairlyeducated.com/>

《FE の構成員》

FE はフェアトレード活動を行うすべての人を指します。

リーダー、そして FE の広い意味での役割というのは、オーストラリアおよびニュージーランドと他の地域との繋がりを作り、促進することです。主にメールやオンラインサポートを通して、そして毎年行われる定例会や素晴らしい国である日本で行われているこのような国際会議を通して、上に述べた役割を担っています。

アドバイザーはフェアトレード活動を行い、大学を卒業した熱心な人々が担っています。クリスとビック（設立者）が現在アドバイザーを務めています。定例会を企画した人がアドバイザーになるのです。

大学におけるフェアトレード活動を行っている他の仲間も FE の一部です。これにはその目標に倫理的消費を行ったり、奴隷貿易を終わらせたり、貧困撲滅の歴史を作ること掲げている既存の NGO 等も含まれます。Oxfam や Oaktree、Vision Generation も含まれます。また、他国の仲間も含まれます！

学生団体の中には、ヘレンと私がアデレード大学で始めたように、ただフェアトレードに専念するものもあります。

www.oxfam.org.au/explore/youth

www.vgen.org

www.oaktree.org

《どのように大学をサポートするのか？》

私たちは学生やスタッフを支援するため、以下のようなことを行っています。

- 第三のフェアトレード活動への支援、オンラインメディアや呼びかけを通してのコミュニケーション
- フェアトレードに関する情報の照合、拡散

- ブログの更新
- ソーシャルメディアによる情報共有の推進
- 定例会の呼びかけと継続したサポート
- 新しいフェアトレード組織や活動への助言

《FE の活動 - 定例会》

2011 年より、FE 定例会が毎年さまざまな街で 7 月の大学冬期休暇の間に開かれます。主催大学の企画者や大学サークルで構成するチームを結成します。

2011 年はシドニーで、2012 年はメルボルンで、2013 年はホバートで行われました。この定例会にはいくつか目的があります。

- (1) 初めに、大学同士のネットワークを作り、つながりを強化すること
- (2) 第二に、以下のような情報、知識、技術を身につけること
 - フェアトレードに関する知識をグローバルなものに
 - フェアトレード運動に関する技術を身につける
 - 学生やスタッフ間での情報・知識共有 等
- (3) 第三に、参加者の動機づけと活動意欲の向上を図ること
- (4) 最後に行動を起こすための約束、活動、呼びかけをすること

リーダーのヘレンと私は定例会企画チームの支援はしますが、実際に定例会の企画に加わることはありません。

《過去の活動》

(1) #EveryUni (2012)

#EveryUni の目的は、草の根の活動とトップダウンの活動を共に育てることです。目標として、2015 年までに活動しているすべての大学がフェアトレード認可を受けることを掲げました。フェアトレード認知度向上のため、ソーシャルメディアを用いました。例を挙げれば、フェアトレードに関する面白いメッセージが書いてある人気のミームを使用しました。Facebook グループや写真をより多くの人に見てもらうためです。

クリスとビックは認知度向上のため、ブログや新聞記事を書きました。また、私たちの大学に注目を集めるため、Twitter や Facebook を使用しました。

この活動の強みは、フェアトレード活動の継続性と商品調達の面で強い影響を持っている 2 つの団体の協力があったことでした。これが成功し、1 週間で 1000 人の署名を集めることができました。

TAG - Tertiary Access Group www.tertiaryaccessgroup.com.au

ACTS - Australasian Campuses Towards Sustainability group www.acts.asn.au

(2) MyShout (2013)

以下の情報は、2013年にクリスとビックが実際に作成した活動企画書です。

MyShout とは : FE と FTA (the Fair Trade Association) が運営するオーストラリアのフェアトレード認知活動であり、反貧困週間の 2013 年 10 月 13~19 日に開催されました。

MyShout の目的 : その地域のフェアトレードカフェを運営する学生 / スタッフ団体が楽しく活動し、イベントに引き込むことができるよう支援することによって、フェアトレードコーヒーの認知度向上を図る。

MyShout の方法 : このイベントには主に 3 つの形態があります。どの形態においても、学生 / スタッフ団体がイベントに参加し、推進します。他の好意的な団体に大きな印象を与え、活動に引き込むことができます。FE はその過程の中で彼らを援助します。

1. 活動例 1 : Pay Fair Trade Forward : <http://p3foundation.org/pftf>
2. 活動例 2 : Suspended Coffees : <http://www.suspendedcoffee.com.au/>
3. 活動例 3 : Donations to domestic anti-poverty organisations
: <http://www.streetsmartaustralia.org/>

活動の成果 :

全員が MyShout のアイデアを共有している仲間であり、約 8 大学がこのキャンペーンを実施しようと試みました。各大学でどのように活動するのか、何人のボランティアが協力してくれるのか、どれだけの時間をさけるのかによって異なった活動を展開していました。しかし、この活動を進めていくことは、学生団体にとって困難であり、場合によっては非常に多くのボランティアを必要とすることがわかりました。さらに、その時期は学生が忙しく、ボランティアを見つけにくかったのです。だからこそ、私たちはさらに認知度向上に向けて活動する必要があるのです。

《FE の未来》

私たちは、オーストラリア・ニュージーランドのフェアトレード活動を築いていきたいと考えています。海外ネットワーク構築や互いに学び合う支援をしたいのです。国際貿易問題や国際協定への関心を引き出す活動を行っていきます。(例えば、G20 会合が今年オーストラリアで開催される)

《FE と繋がろう ! 》

- ・ ウェブサイト : www.fairlyeducated.com
- ・ メールアドレス : admin@fairlyeducated.com
- ・ フェイスブックページ : www.facebook.com/fairlyeducaed
- ・ ツイッター : @fairlyeducated
- ・ Youtube : Fairly Educated

＜始めに＞

2012年に同僚と日本ーフィリピン間のフェアトレードに関する調査を行いました。この調査に基づいて、今から皆さんに私の得た考察についてお話しします。

第8回フェアトレードタウン国際会議の期間中、皆さんはフェアトレード活動の素晴らしさや利点についてたくさん聞かれると思います。私はフェアトレードを支持する者の一人として皆さんに「活動の実態や疑問」についてお話しします。

まずは現在のフェアトレード活動の実態に少々苦言を呈します。現在、日本ーフィリピン間でフェアトレード活動を行う団体や個人の方々の多くは、様々な規制やフェアトレードの認知度の低さに頭を悩ませています。具体的な団体名や個人名は伏せさせていただきますが、これからお話しすることは、文書資料やフェアトレード事業に直接的に関わる人々へのインタビューに基づいているため全て真実です。

概要：日本とフィリピンのフェアトレード関係の背景

はじめに、日本ーフィリピン間のフェアトレード活動の発端について話します。1980年代の初め、当時フィリピン国内のマルコス独裁政権が危機に陥り、また、いくつかの地方では深刻な凶作が続き、飢饉が広がっていました。最も深刻な地域はビサヤ（※フィリピンは大きく3つのブロックに分けられる。北部：ルソン、中部：ビサヤ、南部：ミンダナオ）中心地のネグロス島という小さな島でした。収穫される農作物のほとんどが砂糖だったこの島はマルコス独裁政権と密接な関係を持つ巨大な地主に支配されていました。同時期に、砂糖の国際市場価格が突如急落し、生計を立てる手段を失ったネグロス島民は飢饉に苦しみ多くの人々が餓死していきました。日本ーフィリピン間のフェアトレード活動はこんな悲惨な状況の中始まったのです。飢饉が続く中、日本ネグロス運動委員会（以下 JCNC）が設立されました。日本とフィリピンの社会貢献活動家によって設立された JCNC は、フィリピン政府が当時の悲惨な状況を打破することが不可能であると考え、ネグロス島に直接的な支援ができる資源を集め始めました。

1986年の“ピープルパワー革命”によってマルコス独裁政権が倒されると、JCNCは物資を供給するそれまでのやり方を変え、ネグロス島民が自分たちの島で自立した生計を立てることができるよう「貿易」という手段を用い、かつて島内で盛んに作られていた「砂糖」を貿易商品に選択しました。かつて大地主の管理する大規模な砂糖農園（or 砂糖プランテーション）で生産していた砂糖ではなく、農民や協同組合が管理する天然の砂糖を貿易対象にしました。マスコバド糖やきめの粗いもの、糖蜜のついた精製されていないブラウンシュガーなどがこれにあたります。

2つ目の製品に選ばれたのは、バランゴンバナナです。熟れても緑色のままであるこのバナナは当時まであまり多く消費されることがなかったため、日本に輸出することで大規模な収益が見込めると予想されたのです。バランゴンバナナが日本市場への輸出対象となった決め手は、日本国内においてひと家庭あたりの人数が多いからでした。日本の農作物の多くは戦中戦後、また高度経済成長期間に化学汚染されていたため、1970年代から1980年代にかけて、日本人の「食の安全」に関する関心が高まりました。つまり消費者が「安全なものを食べたい」と思い始めたのです。フェアト

レード活動は消費者と生産者を直接結び付ける活動です。バラゴンバナナを日本向けの主要なフェアトレード製品の一つにすることができたのは、食品の安全性と品質を求められ、厳しい立場にある生産者のことを十分に理解している消費者がいたからこそ成し得たことなのです。

以上が日本－フィリピン間でフェアトレード活動が始まったきっかけです。私のプレゼンのポイントは、ネグロス島のみならずフィリピンのその他の地域でも、新たに立ち上がり成功を収めている団体がこの先20年間で増えるであろうということです。主にバナナや砂糖、マンゴーのような農業製品に加えて、日本－フィリピン間の貿易市場は、手工芸品や小型金属製品も含めて拡大を続けています。しかし、全ての生産者団体が成功を収めているわけではありません。

2013年10月28日に世界フェアトレード機構(WFTO)はフェアトレードのサプライチェーン(原材料の調達から物流を経て販売に至るまで)を世界的なものにしようという考えのもと、「10の原則」を制定しました。

さて、冒頭で私は「現在のフェアトレード活動の実態に少々苦言を呈します」と述べましたが、ここで一旦その内容に回帰しましょう。私は、現時点でフィリピン国内には「環境に常に配慮しながら」フェアトレード活動に携わっている企業は無いように思います。また、フィリピン国内の大手のフェアトレード会社は作物を育てる際に有機肥料を使用しています。もちろん肥料というのは作物が出来上がる前に必要なものですから、農民たちは収入を得る前の段階で大量の肥料を購入しなければなりません。いわば借金をしている、ということなのです。

つまり、現在フィリピン国内には生産者が、作物を生産する上で必要な物資を買い求めるために「前払い」をしなければならず、そのために現在でも今ひとつフェアトレードの現状が改善されないのです。

＜おわりに＞

フェアトレード運動は、裕福で社会的に意識の高い先進国の人々と貧困に苦しんでいる生産者を直接的に結びつける画期的な方法だと思います。

ですが、最近フェアトレード運動は法人化、労働組合や財団・企業の設立のためだけになっている気がしてなりません。フェアトレード運動は決して売名行為ではありません。活動を通して消費者と生産者の距離を縮め、最終的には貧富の差をなくしていかなければなりません。近年は先進国を中心に経済が冷え込み、フェアトレード活動は厳しい風当たりを感じています。

フェアトレードで扱われている商品はどれも値段が割高です。しかし、ひとつひとつ手作業で作られた商品にはそれだけの付加価値があるのです。はっきり言って、フェアトレード活動は先進国の消費者なしでは成り立ちません。今後も長い間フェアトレード活動は「商品を買ってくれる消費者」に大きく依存していくことでしょう。ですから日本とフィリピンはこれまで以上に固く手を結んでフェアトレード活動を発展させていかなければなりません。

常に現状に満足することなく、生産者と消費者が公正に取引していくにはどうすればいいかを考えなければなりません。よりよきフェアトレード活動を行うにはどうすればいいか、フェアトレード活動の真の目的は何かを常に問い続けていかなければならないという主張をもって私の発表を締めくくりたいと思います。

質問シート回答

【国内ゲスト】

神戸国際大学 Fair*Clover

①学内外でのイベントで使う FT 商品はサークルとして買うのでしょうか？それともお店から借り受

けたり、大学を通したりするのですか？（ファッションショーの服等）

学生でのイベントで食品関係の購入は学校を通しての購入。雑貨は委託販売、ファッションショーの衣装はレンタルしています。

②海外でのフェアトレード大学では認証商品を用いることで広報や他の商品との差別化がしや

すいと思うが、認証商品でないフェアトレード商品を学内で販売する時にはどのような差別化を行っていますか？

全て FT 商品を販売しています。

③また売れ行きとしては認証、非認証、その他の商品はどのような感じですか？

それほど差は出ていませんでした。

④FTU の手続きはどういった点で複雑か？

大学との交渉と学内で FT 商品を購入できる環境を常時作ることが難しいと思います。

⑤大学に協力をしてもらうには？

学校からの要求としては、3年後、5年後のプランもしっかりもって、大学側に説明することが重要だと考えます。

⑥実際にどのような活動の効果、手ごたえを感じてますか？（学内外の反応、売れ行き等）

経済学部生200人に対して FT の認知度と購買行動に関するアンケートを実施したところ、200人中138人（約7割）の学生に FT という言葉を知ってもらっているという結果がでています。「どこでそれを聞いたか？」という問いに対しては、フェアクローバーのイベントなどで知ったと答えた人が半数以上でした。

⑦イベント等で得たお金の流れは？（生産者への流れは把握されていますか？）

イベントは自分たちの部費でイベントを作っているため生産者へお金が行くことはないですが、部費から FT 商品を購入するため、生産者へのお金の流れは企業により情報を得ることができます。

⑧スポーツ×FT と国際協力への理解を経るチャリティーイベントとの違いは？

団体への利益は発生せず、募金活動も行っていません。

⑨海外ゲストの話聞いての気づきは？

FT 推進はもちろん、社会的正義に対する意識の向上を図らないといけないと思います。

⑩FTU を目指す大学内におけるフェアトレード認知度はどのくらいなのか？

今だFT 大学はアジアに存在しておらず、その基準を私たちが作っていかようと考えているので明確な基準はありません。6の回答の通り、7割の学生がFT を認知しています。

バレンタイン一揆実行委員会

①バレンタイン一揆を行う上で苦労したことは？

たくさんありすぎて「何もかも苦労した」と言いたいところですが、強いて言うなら、「フェアトレード」を簡潔明瞭に伝えられないことと、身近なところでフェアトレード商品を扱っている店が少ないという現実があり、その中で「フェアトレード商品を買おう」と訴えなければならなかったことです。関連した内容を、質問番号 2、4、5、8、9 にも回答しているのでぜひご参照ください。

②フェアトレード商品は地域によって購入し易さに差があるとお話されていましたが、今後この地域差(認知度を含め)を解消していくためにはどうしたらいいと思いますか？

「購入のしやすさの差」とは、フェアトレード商品を置いている店が少ないという理解で回答します。

地域によって地理的条件や人口の差があるので、その地域の人口に対してフェアトレード商品が置いている店が多い(少ない)は一概には言えません。しかしながら、絶対値としていわゆる地方は取り扱っているお店が少ないのは確かで、「バレンタイン一揆」をやっている中でも、特に地方の方からは「買いたいけど買える場所がない」との声を聞きました。

この問題を解決するのは非常に難しいと思いますが、唯一私たちにできることは、都心・地域を含めフェアトレード商品を買う(求める)ことができると考えます。また、コンビニやスーパーで「お客様の声」として「〇〇というフェアトレード商品を置いてほしい」という直接お願いしたり、投書をしたりすることで、一時的にでも取扱うようになったという声も聞いています。認知度の高さは地域によって差があるとは思いますが、認知度を上げる方法として1つ、地域差を考えずにできることが私たちにはあります。それは、フェアトレードを知っている(知った)私たちが、フェアトレードについて知ってもらうために大小問わず動く(アクションを起こす)ことです。

FTSN Japan

①今後どのようにFTSN に人をいれていこうと思っているのですか？

今後のコアメンバーの募集方法を質問されているということでもよろしいでしょうか？
現在のFTSNのネットワーク運営は、イベント・インターネット・人づてでFTSNのことを知り、ネットワーク運営に興味を持ったコアメンバーが行っております。今後もコアメンバーの募集は今まで通り、そのように、「フェアトレードに興味がある」、「フェアトレード推進活動をしたい」、また、「フェアトレード推進において人と人とを繋ぐネットワークの重要性に興味を持っている」方になっていただければと思っております。

②イベントを増やす予定はありますか？

もちろんイベントを増やしたいとも思っておりますが、それ以上に一つ一つのイベント・キャンペーンを「なぜ行うのか」「どのように行うのか」をきちんと踏まえ、意義のあるイベントを行っていきたいと思っております。

③今後大きなイベントを予定していますか？

現在活動中の10期で予定しております全国規模のイベントは、9月開催予定の第12回フェアトレード学生サミットです。毎年約100名の学生が参加する全国合宿です。今年は9月2～4日に東京オリンピックセンターにて行います。参加申込は5月以降、HPにて行います。ぜひ、皆様のご参加をお待ちしております。

④このネットワークに参加するには登録等が必要でしょうか？

FTSNのネットワークに参加するにあたって特別な登録は必要ございません。

⑤そうだとしたらどれくらいの団体が参加していますか？

北海道エリア・北陸エリアでは1団体ずつ、関東支部では約15団体、関西支部では約18団体、九州エリアでは5団体が参加しております。

⑥関西で「まちちょこ」の取り組みは行われていますか？

今シーズンの冬には実施した団体はありませんでしたが、関西でも過去にまちチョコに取り組んだ団体がございます。また、現在も、来シーズンに向けてまちチョコへの取り組みを目指している団体がございます。

各団体共通の質問

①他大学、他団体のフェアトレードサークルで地域社会との交流として具体的にどんなことをしていますか？

これからのイベントで他大学と連携して地域社会との交流を増やしていきたいと考えています。
(Fair*Clover)

「地域社会」というのは、その大学・団体のある地元の街という理解で回答します。
フェアトレードを通じた地域社会との交流を目指した企画として象徴的なのは「まちチョコ」

でしょう。「まちチョコ」も実施団体によって一部内容が違うので一概には言えませんが、多くは、既存のフェアトレード商品のパッケージデザインをその地域の特徴が出るものに変えて販売するという活動をしており、そのデザインは市民から公募するそうです。私自身はこの活動に直接関わったことがないのでこれ以上の説明はできないのですが、気になる方がいらっしゃいましたら、インターネットで調べてみてください。(バレンタイン一揆)

出張授業や、各地域のアースデイやその他地域のイベントへの参加、また、大学近隣のお店に団体のまちチョコや団体独自のフェアトレード商品を置かせていただく、などが挙げられます。(FTSN)

②一般の人に実際にフェアトレード商品を知ってもらうだけではなく買ってもらうためにはどのような働き掛けが有効だと思いますか？

貿易の説明を簡単にすることで、物流の流れを把握してもらうことでFTを知ってもらえたらいいと考えています。(Fair*Clover)

「一般の人に実際にフェアトレード商品を知ってもらうだけではなく買ってもらうため」の働き掛けの1つがまさに「バレンタイン一揆」です。同じ時期に、思いを共有する人同士が結集してフェアトレード商品を買うためのプラットフォームを作り、共に動くことで、世間からの注目を集めるだけでなく、「フェアトレード商品買ってみようかな」と思い始める人が増えることを狙っていました。ここでのポイントは、フェアトレード商品を知ってもらいたいと思っている人が共に行動を起こす(起こせる)ためのプラットフォームを作ったということでしょう。その意味では、フェアトレード学生ネットワーク(通称:FTSN)は各大学・学生団体をつなげるという効果的な役割を果たしていると言えるでしょう。(バレンタイン一揆)

自分が買ってよかったと思う商品を使っている様子を見せる(衣服やアクセサリなら身につけている様子、食品なら少し分けてあげて食べてもらう、など)ことで、実際にフェアトレードがいい、買いたいと思ってもらうことが有効だと思います。いくら、社会貢献でも、ダサかったり、似合わないものを無理して買っても、何度も買いたいとは思えませんし、それではフェアトレードで最も大切な点である継続性が実現されません。(FTSN)

③フェアトレードを広めるために難しいことや苦勞していることはありますか？

最初の“興味”を持ってもらうことが難しいです。また、その興味を持ってもらうための企画づくりが難しいです。(Fair*Clover)

僕自身が1番苦勞しているのは、フェアトレードをどうやって説明するかです。「フェアトレード」という言葉の定義はFLOやWフェアトレード0をはじめとした様々な機関、人が出していますが、それをフェアトレードという言葉で全く聞いたことがない人(例えば小学生)に伝えようとするとき、その定義の言葉のままでは難しく伝わっていません。僕自身は1年余りフェ

アトレードに関する活動をしています。相手やシーンによって毎回説明を変えており、未だにテンプレートとなる説明の方法を見つけられずにいます。なので、もし、フェアトレードという言葉知らない人に、簡潔明瞭に伝えられる方法を知っている方がいればぜひ教えてほしいです。(バレンタイン一揆)

イベントに来られた方に、短時間でフェアトレードを説明する際、言葉足らずな説明になってしまい、フェアトレードとチャリティーを同じものと認識されてしまったり、フェアトレードの身近さや魅力を伝えきれずで終わってしまうことです。かといって、長く説明しすぎて、あまり興味のない方の心には響きませんし（むしろ興味のないこと長々と話されると引いてしまわれることもありますよね。）、その兼ね合いが難しいなと思っております。(FTSN)

④今後、日本のフェアトレード認知度を上げるためにはどうしていけばいいと思いますか？

私たちが考えるものとして、もっとイベントを開き、私たち自身がいろんなイベントに参加することが大事だと思います。(Fair*Clover)

質問番号⑥参照。(バレンタイン一揆)

フェアトレードが「すごいこと、自分には遠いこと」ではなく、「身近なこと」になる必要があります。「フェアトレード＝海外」と、自分とは遠いところの問題とってしまう人もおられると思いますが、日本にだって顔が見える人と人との繋がりを大切にすることで地産地消や健康や環境に配慮する有機栽培の概念はあります。また近年は、東北の震災復興のために、被災地の方の作ったものを買う「応援消費」(東京経済大学の渡辺教授がフェアトレード国際シンポジウムで仰っていました。)も広まっています。

そうした、日本に既にある考え方や消費のスタイルとうまく絡めていけば、フェアトレードの認知度(フェアトレードという言葉を知っている度合い)が上がるかは分かりませんが、フェアトレードのそもそもの考え方(人やものを大切にすること)は確実に日本でも根付いていくと思います。(FTSN)

⑤フェアトレードの認知度はどれくらいですか？(大学内、国内)

学内認知度は、上記でお答えした通り「200人中138人(約7割)の学生にFTという言葉を知ってもらっているという結果」です。国内では、FTTJが実施したフェアトレード認知度調査によると、2012年には25.7%の人がフェアトレードを知っていると答えています。(Fair*Clover)

一般社団法人フェアトレードタウン・ジャパン(東京・渋谷)が、全国1076人(15~69歳)を対象に「フェアトレードと倫理的消費」に関する意識調査を3月に行った結果があります。これによると、「フェアトレード」という言葉を見聞きしたことがあると回答した人は50.3%で、意味を理解している人は25.7%だそうです。

大学内では私自身も調査を行ったことがなく、また、大学別のデータも存在しないので、わかりません。実感で答えてほしいという声が出るかもしれませんが、それにも偏りができるので、申し訳ないのですが回答は控えさせていただきます。(バレンタイン一揆)

残念ながら、各大学におけるフェアトレードの認知度はFTSNでは把握しておりません。また、日本国内におけるフェアトレードの認知度は、一般社団法人フェアトレード・タウン・ジャパンやその他の組織で調査・発表されているデータがございますのでそちらをご覧くださいと思います。(FTSN)

⑥「FTとは何か？」と聞かれたときとてもわかりやすく答えるにはどんな言い方(単語)をすればいいか？

「身近にできる国際協力の1つ」(Fair*Clover)

よく使われるのは「公正な取引」という言葉です。確かにこの言葉は的を得ているのですが、これは直訳しただけなので、相手は何となく分かった気になることが多いような気がします。質問番号③の回答にもある通り、僕自身もわかりやすく答えるための「共通言語」のようなものを持っていないので苦労しているのですが、具体例(例えばチョコレート)などを使って説明すると興味を持ってもらいやすくなるでしょう。(バレンタイン一揆)

分かりやすいのかはわかりませんが、私が一番納得した言葉はシサム工房さん(関西圏にあるフェアトレードショップ)の「買うことは投票すること/what to buy is what to vote」という言葉です。私たち先進国の消費者は、お金の使い方によってどんな社会を望むのか意思表示することができます。「貧困のない社会を望むなら、貧困を解決するような過程で作られたものを買おう。」というように、フェアトレードの仕組みを伝えることは難しいかもしれませんが、自分がお買い物をするときに、これが一体どうやって作られたのか、即座に買うのではなく、一旦手を止めて考えてみて、と伝えることは難しいことではないと思います。(FTSN)

⑦フェアトレードが身近にならない理由は？

認知度が低いからだと思います。(Fair*Clover)

「フェアトレードが身近にならない」というのを「認知度(理解度)が上がらない」と置き換えましょう。そう考えると、フェアトレードが身近にならない(認知度が上がらない)最大の理由は、フェアトレードという仕組み自体が複雑であることだと考えます。フェアトレードの仕組みはシンプルに見えることもありますが、実際は非常に複雑です。なので、いくらフェアトレードの良さを伝えたくても身近に感じられるような上手い説明できないということが起こってしまいます。かといって、仕組みをシンプルにすることはできません。なぜなら、そうなるともその「フェアトレード」という仕組みそのものが変わってしまうからです。ただ仕組みをシンプルに捉えるための情報を編集することはできるはずで、その中で鍵となるの

は、フェアトレードを身近に感じさせるための、フェアトレードをという言葉や仕組みをわかりやすく伝えるための「共通言語」だと思います。私自身もまだ「共通言語」は見つかっていませんが、その必要性は強く感じています。なので、良い「共通言語」が見つかったらぜひ教えてください。(バレンタイン一揆)

⑩<<FTSN 回答欄>>の回答とも重複しますが、自分自身に関わる問題ではなく、どこか遠い・関係のない人の問題と認識している人が多いのではないのでしょうか。フェアトレードが広く普及している欧米とは、価値観・育つ環境も全くことなるので仕方ないのかもしれませんが、身近にするための解決策は10.で述べた通り、日本で既にあるフェアトレードと似た概念のものとして上手く絡めることだと思います。(FTSN)

⑧国内におけるフェアトレード推進と途上国支援が分離しないためには？

行動などは、詳しくはわかりませんが、一人ひとりがわざわざ分けて考えるのではなく、同じような考えを持って関わっていくことが大事だと思います。(Fair*Clover)

「途上国支援」が具体的にどういうことを指すのかが分からないので一概には言えませんが、フェアトレードという仕組み自体途上国支援の要素を含んでいるので、フェアトレードを推進することが途上国支援と分離することはあまり考えられません。ただ、フェアトレードではできない支援の方法もあるので、そういったことをしている団体などと協力していく必要はあるでしょう。(バレンタイン一揆)

途上国支援がこういった内容のものを示すのかは分かりませんが、日本国内でフェアトレードを推進する際に、「フェアトレードを多くの人に広める」ことを目指すのではなく、「フェアトレードを多くの人に知ってもらい、今までよりも途上国とそれにまつわる問題に関心を持ってもらう」ということを目指すといいのではないのでしょうか。何のためにフェアトレードを推進するのか、常に意識することが必要だと思います。(FTSN)

⑨実際に生産地に行ったことはありますか？

生産地に訪れた事はありません。(Fair*Clover)

国際的な認証を受けたフェアトレード商品の生産地ではなく、認証にとらわれないフェアトレードの活動を独自に実践しているところでしたが、フィリピンでフェアトレードのバナナチップスとアクセサリーを生産している現場に行ったことがあります。(バレンタイン一揆)

2013年の春にバングラデシュに行き、先進国向けではなく、バングラデシュ国内で販売されるサリー(南アジアの女性の民族衣装)を生産している村へ訪れました。ただ、この村はバングラデシュ国内向けの商品なので、日本でよく企画されている先進国向けのフェアトレード商品の生産地見学とは、全く異なるものでした。(FTSN)

⑩フェアトレードを広めること、つまりアンフェアを終わらせるためには何が必要だと思いますか？

所得格差がある以上、不可能だと思います。(Fair*Clover)

まずはアンフェアな現実気付くことから始まると思います。アンフェアな現実を「フェアな世界」と勘違いしている(幻想を見ている)人が意外と多くいるので、まずはここを変える必要があります。この作業は地道ですぐに効果がでるとは限りませんが、そのために動くことが重要な一歩なのです。(バレンタイン一揆)

どういった状況が「フェア」なのかはその人の住む場所や価値観によって異なると思います。大切なのは、いかにしてその異なる「フェア」を擦り合わせるかではないでしょうか。現実味のない話かもしれませんが、お互いが相手にとっての「フェア」が何か、相手と自分が互いに「フェア」になれるように、歩み寄ることが出来ればアンフェアな状態は終わるし、貧困はなくなると思います。(FTSN)

⑪不公正な貿易の背景には、先進国の所得層の不満をそらすためにあるようにも思えます。(先進国の貧困層が生活を行い社会への不満を抱かせないよう安価に物品を販売する)フェアトレード運動と労働運動の間における運動やムーブメントの必要性を感じていますか？ 特にアイデアがあれば教えてください。

自分の趣味とフェアトレードをコラボレーションは、必要だと感じています。アイデアとしては、フェアトレードを題材としたアプリケーションを作っていることを考えています。(Fair*Clover)

今まで考えたことがない視点からの深い質問で、期待されるような回答ができそうにありません。フェアトレード運動と労働問題の間における運動やムーブメントの具体例として、日本で、メーカーにフェアトレードに関するブースを出展(出展)したという例や、あるNGOが労働組合と協力してフェアトレード商品の販売をしつつ、フェアトレードについての理解を深めてもらうためのセミナーなどを行っているという例を聞いたことがあります。私の独自のアイデアは思い浮かばなくて申し訳ないのですが、この情報が参考になれば幸いです。(バレンタイン一揆)

先進国の貧困層が不満を抱かないように安価に販売する、という考えは今まで私の中になかったのですが、興味深い考え方ですね。

フェアトレードと労働問題は切っても切れない関係だと思います。フェアトレードが広まり、労働力の酷使や児童労働が減っていけば、世界的に労働問題について考え直す方向に行きつくと思うので、フェアトレード運動と労働運動両方に繋がるムーブメントを起こすことは実行する価値があると思います。(FTSN)

⑫フェアトレードの言う「適正な価格」とは何を指すのか？

生産者が手にするべき価格のことです。(Fair*Clover)

あくまで私の考えですが、その商品の原料を作る生産者から消費者までに至るまでの過程に関わるすべての人が対等な立場（形式上ではなく質を伴っていることが条件）で交渉・取引が行われ実現された価格のことだと考えています。(バレンタイン一揆)

一般的には、労働やその商品を生産する際のコストに見合った価格のことを指すのではないのでしょうか。しかし、国によって物価や環境が異なることや、価値観によっても、何が適正なのか判断することはとても難しいと思います。(FTSN)

⑬フェアトレード商品は高いという現実をどう打破していくのか？

まだ安易な考えではありますが、ブランド化する事により、その値段が高いと思わせないようにと考えています。(Fair*Clover)

これには2つの捉え方があると考えています。1つは、「フェアトレード商品は『高く』で当然」という捉え方です。これは私の独自の考え方ですが、生産者から始まり私たちのもとに届くまでの過程で関わる人・団体・企業がフェアな立場で取引しようとする、今まで私たちが見てきたような低価格では実現できず、結果として商品の値段が高くなるのは当たり前ではないかと思うのです。この考え方に沿うと、フェアトレード商品は「高い」のではなく適正な値段であり、今まで見てきた商品の価格が、非常（非情）なほど安いだけだと認識できます。

一方、常識的に考えると「フェアトレード商品＝高い」というのは現実としてある問題です。フェアトレード商品が高い1つの理由は、需要が少ないから供給も少なく、結果として高くなってしまふという点が挙げられます。この考え方なら、フェアトレード商品を安くする方法は明快で、需要を起こすため（フェアトレード商品を安くするため）の努力を、企業も私たちもしなければならず、それが「フェアトレード商品は高い」という現実を打破する方法なのではないかと思います。(バレンタイン一揆)

フェアトレード商品が高いのではなく、他の商品が安すぎるということを伝えることではないでしょうか。全ての低価格商品がそうとは言いませんが、低価格である理由に児童労働や搾取、環境汚染など様々な問題がひそんでいるというのが現実です。私たちが本来支払うべき価格を、搾取や木々の伐採などによって誰かが代わりに支払ってくれているのです。そのことを誰もが認識しなくてはなりません。(FTSN)

⑭フェアトレードの影響力って実際どれくらいなのか？

実際に統計をとったわけではないので分かりませんが「コラボレーション」する事により、影響力は大きくなると思います。(Fair*Clover)

ここでいう「影響力」が何を指すのか、どれくらいの範囲を指すのかが分からず、質問の意図に対する回答となるかはわかりませんが、フェアトレードを推進するための運動は先進国・途上国問わず世界中に広まっているのは確かで、フェアトレードタウン国際会議はまさにその象徴と言えるでしょう。(バレンタイン一揆)

フェアトレード・ラベル・ジャパンさまの HP によりますと、『2010年現在、中南米、アフリカそしてアジアの63か国で約120万人の生産者が、さらにその家族を含めると推定約750万人がフェアトレードによる恩恵を受けています。』とのこと。 (FTSN)

⑮フェアトレードは稼いでいいの？

決して稼ぐという目線だけで考えてはいけないと思います。(Fair*Clover)

フェアトレードは、言ってしまうと適切に稼ぐための一種のビジネスの仕組みです。なので、「稼いではいけない」ということは一切ありません。ポイントは、その稼ぎ方が、そのビジネスに関わるひと全てが、形式も中身も対等な立場（フェア）な立場で「適切に」行われているかという点だと思います。(バレンタイン一揆)

フェアトレードはビジネスです。誰もが納得する公正な価格取引の上で成り立つ貿易であれば儲けてもいい、と個人的には考えております。もし、フェアトレードの市場規模が大きくなり、需要が増えて市場メカニズムの働きによって価格が上昇して、生産者・輸出業者・小売店など商品に関わる全ての人々がフェアトレードによって満足いく所得を得ることが出来るならば、それはとても素晴らしいことなのではないでしょうか。(FTSN)

【海外ゲスト】

Fairly Educated 《オーストラリア》

▼日本とオーストラリアのフェアトレードの違い

①日本とオーストラリアのフェアトレードの取り組みの違い

- ①違う商品を輸出入しているから、商品の幅が違う。
- ②オーストラリアでは国内問題でも国際問題でも、ディスカッションしたり批判的に考える文化があるが、日本ではあまり見られない。だから若者の社会運動が顕著に見られるのがオーストラリアでは当たり前です。
- ③オーストラリアには、若者を取り込んだり、リーダー育成する NGO がたくさんあります。
- ④日本のフェアトレード運動は、ビジネスに特化しているタイプが多いように思う。
オーストラリアではフェアトレードの認知度を上げる活動がほとんどで、ビジネスは二の次です。
- ⑤オーストラリアではキャンペーンをしたり、フェアトレードを個人の問題と結びつけること

が日本より容易かもしれません。

②日本でフェアトレードをより広めるために私たちは何をすべきですか？

私の感覚では、日本のフェアトレードはまだ慈善事業という意識が強いように感じます。NGOなどの寄付や資金提供だったり、フェアトレード商品を購入する際に商品の良さよりも寄付するような気持ちで購入するというような。

ですが、フェアトレードは個人レベルの問題と捉えることが必要です。毎日の生活での私たちの行動がどれほど世界に影響をおよぼすか、特に世界がどれほど傷つきやすいかを考えなければなりません。

個人の変革が社会の変革を起こすことを理解すべきです。しかし、単なる消費者の要望や購入よりも重要なことは、人々が不公平なシステムに反対する声をあげることです。

不平等な市場を是正したり公平なトレードを求める努力が、力強い運動として実を結ぶのです。これは日本に限らず世界中で起きるべきです。

私は、日本は行動すること、変化を起こすことに積極的になるべきだと言いたい。フェアトレードはビジネスだけでなく、社会正義のためのものです。それは仲間を増やしたり巻き込んでいくことです。意識を高め、NGOや生産者パートナー、農家を支援することです。

どの年代の方でも参加できるディスカッションイベントがオーストラリアにはあります。フォーラムやパネルスピーカーだけでなく、Q&Aやディベート、批判的思考を参加者全員が身に付けられるようになっています。

学校で、不平等や貧困、そして私たちがどのように変化を起こせるかを教えてください。若いうちからこれらを学ぶことは、世界市民としての意識や行動につながります。

人々にフェアトレード商品やフェアトレードのメリットを話す時に、実際に商品を手に取り、味わってもらってください。生産者や農家の利益になるというだけでなく、オーガニックで健康にも良いことが大きな魅力になるかもしれません。

③オーストラリアのフェアトレードイベントはどういったもの？

オーストラリアにはいろんなタイプのイベントがあります。Fairly Educatedは年に一度、大学生をつなげ、知識や経験を共有するカンファレンスを行っています。また、“Fair Trade Fortnight”というイベントもあります。イギリスで始まったイベントで、フェアトレードマーケットやフォーラムのような啓発イベントを国内の至るところで開催します。世界フェアトレード日は昔からこのイベント期間中にあります。このイベントは、ショッピングツアーや市場、講演会、フォーラムなど何でもできます。

今年の“Fair Trade Fortnight”では、“Fair Trade Futures”というオンライン会議を企画しています。オーストラリアとニュージーランドの人々は、海外や国内の魅力的なスピーカーの話の聴くことができます。その目的は、フェアトレードの未来について様々な視点から考えることです（例えば、政策提言、ビジネス、ラベル、生産者など）。他にもファッションショーも企画しています。

Fairly EducatedとFTAとGlobal Poverty Projectは、大学向けにガーナのココア農家であ

る彼女の経験を語ってもらい、フェアトレードでどのように支援できるかを“Webinar”（Web Seminar）として開講する予定です。Helen と私は、フェアトレードが大学に与える影響について簡単に話すつもりですし、すべての質問にも答えようと思います。

▼フェアトレード学生運動と FTU

④日本の学生運動の印象は？

日本の学生運動は、ここ 10 年でかなり進歩したと思います。ですが私はオーストラリア、ニュージーランド、イギリス、カナダ、アメリカのように若者の運動や行動条件の異なる文化をもつ国と比較はしません。私は、日本の学生の献身的な取り組みや活動に感銘を受けました。また、その情熱と強いネットワークを築こうとする力に感動しました。FTU が広く一般に認知されることはすばらしいが、より大事なことはあなたたちは社会変革を起こしているということです。そうでなければ、長くは続かないでしょう。私は、学生ネットワークに必要なのは、対外的な Facebook ページよりも Facebook グループのようにより自由に議論ができる場をもつことだと思います。

⑤どのように日本で FTU を推進したらいいでしょうか？

イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカなどの FTU ガイドラインに倣って、日本は似たようなガイドラインを作りました。フェアトレードコーヒーやお茶を大学キャンパスで販売したり、大学がフェアトレードに取り組んでもらえるような運動をしてください。個人やキャンパス内にあるカフェやレストラン、大学自体の意識を変える運動が重要です。

⑥Fairly Educated の活動って？

Fairly Educated は主にオーストラリア、ニュージーランドの大学のフェアトレード運動をサポートする組織です。ゆくゆくは世界中の大学に広げたいです。

私たちの運動は大学のグループ間、公共の場、ワークショップ、ミーティングなどの情報を共有するプラットフォームを提供することです。メインの活動は年に一度の Fairly Educated Conference です。この Conference は毎年異なる大学が主催し、オーストラリア、ニュージーランドの大学サークルやフェアトレード推進者を集め、Fairly Educated の知識や経験を共有することで、フェアトレードを促進しています。

⑦フェアトレードはオーストラリアのメディアでどのように取り上げられていますか？

フェアトレードはオーストラリアで過去 5 年間のうちにメディアでの存在感を増しました。しかしまだ大きな注目は浴びていません。フェアトレードは主に小さいローカルメディアにしか取り上げられませんが、時折、“Fair Trade Fortnight” のような大きなイベントは大きく取り上げられます。テレビよりも新聞、雑誌などの出版物の方が多いです。ですが、メディアは間違いなくフェアトレードの認知度向上に役立っています。

⑧FTUになることの良い点と悪い点は？

FTUになることのメリットはたくさんあります。まず、大学という大きな組織レベルでフェアトレード運動を支持してくれる点です。大学側の視点から見ると、CSRへの取り組みとしてFTUをアピールできます。

デメリットは私が考える限りは見当たりません。FTUに認定され、維持していくのは非常に大変なので、多くの支援が必要になることでしょうか。

⑨Fairly Educated はかなり新しい組織ですが、大きな会議や他大学との強いネットワークを築かれています。どのようにしてそのような短い期間で成し得たのでしょうか？

Fairly Educatedはフェアトレードが以前より有名になり広く知られ始めたときに立ち上がったので、こんなに早く成長できました。ですので、私たちと日本のネットワークとをあまり比較しない方が良くと思います。なぜなら、それぞれの国の置かれた状況や文化が、組織の成長を決定するからです。私たちは大学サークルの活動に限界を作らなかったから成功しました。また私たちは「何をするか」は伝えず、もっと効果的な活動ができるように後押しするだけです。大学を通して学生が変化を起こせるように力を貸します。Fairly Educated を創設した Chris と Vic は、二人とも情熱的でしっかり者です。彼らは NGO など他の団体からサポートしてもらうために、まずは団体を認知してもらおうと奔走しました。

⑩FTUになるために一番重要なことは？

メンバーが卒業してもしっかり引き継げるように後輩をトレーニングし、活動を持続させることはもちろん、なによりメンバーが必死に懸命に取り組むことです。

⑪NGO とのコラボの例を教えてください。

日本の学生サークルは NGO とコラボする機会がありません。

例えば、Adelaide 大学のフェアトレードサークルと Oxfam オーストラリア。Oxfam オーストラリアは人々にフェアトレードを支持してもらうように“Make Trade Fair”運動を行いました。そこで Oxfam オーストラリアは学生がボランティアとしてイベントを手伝ってくれる代わりに学生団体にイベントで使えるように資材を貸し出しました。この例は NGO がフェアトレードに関係していれば簡単にコラボできる例です。もしフェアトレードに関わっていない NGO であれば、一番良い方法は実際に会って活動について聞いたり、自分たちの活動についてお話ししたりすることでしょう。

▼Fair Trade More Generally

⑫あなたの大学や国でフェアトレードはどのくらい認知されていますか？

お茶、コーヒー、チョコのような商品のフェアトレードラベルの認知度は、2012 年オーストラリア全土の調査でおよそ 50%でした。オーストラリアの人は 2012 年にフェアトレード認証商品に 1 億 9100 万ドルを使っています。フェアトレードラベルは重要ですが、ラベルの付いていないフェアトレード商品を認知してもらうのは難しいです。

⑬「フェアトレードとは？」と聞かれたとき、何と答えますか？

フェアトレードの意味はすごく広いので難しい問いです。“フェアトレード”という言葉の基本的な意味は、生産者の幸せや繁栄のために作られた商品を扱うということです。その意味は、会社が適正な対価を払い、適切な労働条件を設けることを支持することです。

⑭実際に生産地に行ったことはありますか？

Bec と Helen はインドとネパールのフェアトレード生産者を訪れたことがあります。Helen は 2010 年に “Noah’s Ark” と “Asha Handicrafts” を訪れました。Bec は最近インドの “ORUPA” とネパールの “Magathati” と “Seven Women” を訪れました。

生産地を訪問することはとても勇気をもらえるし、勉強になります。行く機会があるならば、絶対に行った方がいいです。オーストラリアの他の NGO に参加している学生も、途上国やフェアトレードが必要なコミュニティに行く機会があります。

⑮フェアトレードは利益になるとおもいますか？

フェアトレードはすでに利益を上げています。ビジネスとしてフェアトレード商品を作ったり売ったりしている会社の多くが利益を上げているのです。どんなビジネスでも同じですが、利益を上げられるようになるには時間が必要です。しかし、フェアトレードビジネスが現行の資本主義ビジネスモデルの中でも生き残れる市場はあります。

⑯フェアトレードはグローバルな課題を解決できると思いますか？

フェアトレードはグローバル課題のパズルのピースの一つです。世界の多くの人が労働に対してきちんとした賃金を受け取っていないために、貧困の罠に陥っています。フェアトレードは人々が自立し家族を養えるように適正な賃金、労働条件を保証することでこの問題を解決できます。

ガーナのあるココア農家が言いました。「きちんとした対価を払ってくれ、そしたら私は貧困を歴史にしよう」と。

フェアトレードは絶対唯一の解決策ではありません。しかし、貧困や不平等という難解なパズルのピースの一つなのです。

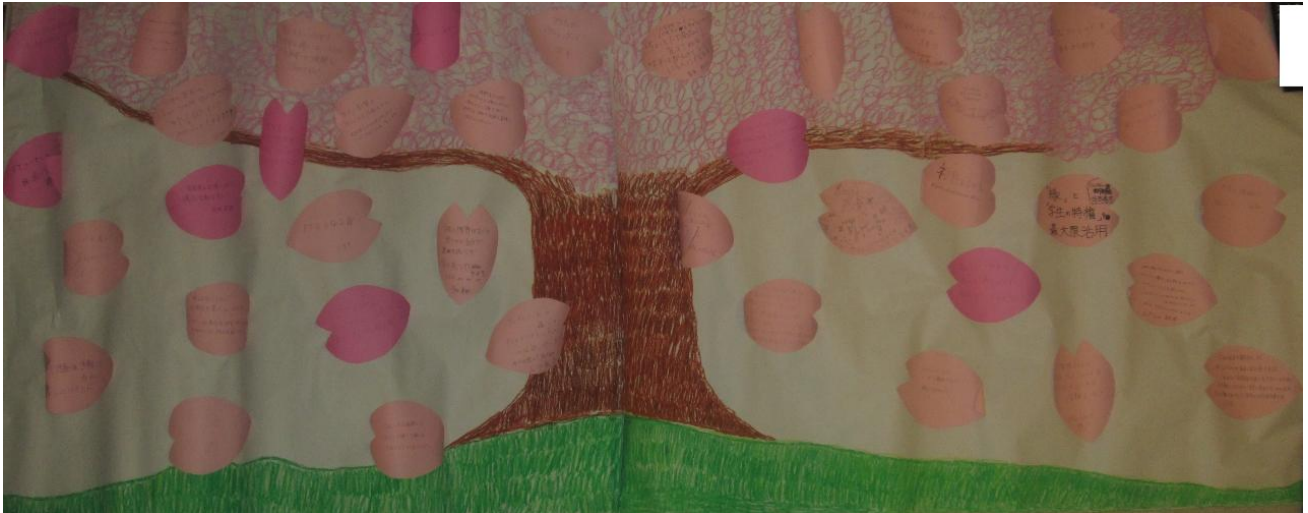
Joel F. Ariate Jr 《フィリピン》

※お詫び※

Joel さんからの回答は報告書完成時に間に合わなかった為、掲載できておりません。
ご了承ください。

個人宣言紹介

個人宣言とは、日本と海外の学生による発表やフリートーク・質疑応答などを踏まえ、自身の今後の活動にどう生かしていくかなど、今後の取り組みや目標、個人のアクションプランの事です。ここでは一部の宣言を紹介させていただきます。



- ・ 視野を広げて客観性を持つ。
- ・ “フェアトレード” を通じてもっとたくさんの人と繋がっていききたい。
- ・ 可能性を信じ、今後 Fair Clover が FTU になるための活動を行う。
- ・ 「縁」と「学生の特権」を最大限活用。
- ・ 今日与えられた機会を次につなげるために全力を尽くす。
- ・ 日本の大学生だけでなく世界のフェアトレードに興味ある学生も巻き込んで大きなムーブメントを起こせたら “フェアトレード” というものをより多くの人に知ってもらえると思います。まずはアジアからの FTU をつくる！
- ・ アート×フェアトレード
- ・ フェアトレードを通して知識とつながりを広げる！！
- ・ フェアトレードの必要性を常に問い続ける。
- ・ FT コーヒーの継続的購入。
- ・ 常に全力
- ・ FT 活動を手軽なものに・・・ ちょこっとイイコト
- ・ 身近なところで FT 商品を買う&伝える！いつか FT 商品を作るデザインなどお手伝いができたら良いな。
- ・ まずはサークル内での認知！！イベントなどして周辺への認知！！たくさんの人に知ってほしい。ほんとうのこと！！
- ・ 日本の学生のフェアトレードムーブメントを NGO としてサポートします。

- ・生産者の立場に立った購買活動をする！！
- ・身近な人に何かを生み出す立場に立ってもらい生産者への理解を深めてもらう。
- ・生産者とのつながりを大事にしてこれから共に活動していきたい。
- ・社会に対する無関心をなくし、実際に行動することができる社会を作る。
- ・たくさんの人にフェアトレードをわかりやすく伝える。
- ・FTUになる！！
- ・学生に限界はないと思うので自分で壁を作らず常に前へ行きます。Still on my way
- ・視野を広く持ち、他大学のFT活動はもちろん、海外のFT活動も知り、自分たちの活動や蓄積につなげていきたい。
- ・誰かに影響を与えられる活動をする。
- ・FTの理解と幅広い活動
- ・アクティブにアグレッシブに！
- ・1つの種をみんなで満開へ。
- ・今回の発表を聞きまして、より深くフェアトレードが身近にあると感じました。これからの1年間はより良くフェアトレードの活動に貢献し、バレンタイン一揆に参加したいのと先生たちとアフリカに行って実際にフェアトレードを身近に感じたいです。
- ・フェアトレードを根本から知る。
- ・FTの知識を増やし、親しい人々に広める！！
- ・視野を広げる。自分が見たくないもの。知らないものを見る。
- ・フェアトレードをもっと知って多くの人に宣伝できるようになる。
- ・EXPAND NETWORK THROUGH FAIRTRADE
- ・フェアトレードについてもっと貪欲に学ぶ！京女にフェアトレードを！
- ・他団体や地域とも協力したFTの発信を目指していきたいと思います。FTによって誰に利益が行くのか、きちんと考えて発信していきたいです。自分が他の人に伝える内容が偽ものでないよう勉強を続けていきます。
- ・フェアトレードについてもっと知る→仲間を集める→佐賀の人にもっと知ってもらう！！
- ・いつも飲むコーヒー、いつも食べるチョコレート、ちょっとFT商品に変えてみる！！まずは自分のとなりにいる人に伝えよう！
- ・フェアトレードを評価できるように勉強する。
- ・フェアトレードの持つ問題点をより深く理解し、周りのフェアトレードに関わる人々の考えを取り込みながら発信していきたいと思います。
- ・I will continue to help Fair Trade linkages be more accountable ,transparent and fair to the product and educate univ.students.
- ・Link social Justice movements locally and globally.

学生宣言

学生宣言は、実行委員会で考案し、3月28日に行われた報告会で宣言し、承認された。以下、日本語と英語による宣言文。

学生宣言

私達はこれまで、フェアトレードに関する様々な活動を行ってきました。

それらの活動の結果として、全国規模での大きな学生のネットワークができ、県境を超えた、以前よりも多種多様な活動を行うことが出来るようになりました。

この様に、学生によるフェアトレード運動は、フェアトレードを推進していく中で、重要な役割を担っています。

私達日本の学生は、アジア初のフェアトレード大学の認定（誕生）を目指すため、フェアトレード大学の認定基準に基づき、フェアトレード大学を推進していくための活動を行っていくことを宣言します。

また、この宣言に基づき以下のことを行います。

- 1、フェアトレード大学をテーマとした学生による全国規模の会議を毎年開く
- 2、フェアトレード大学の推進を目的としたイベントを毎年行う
- 3、アジア地域の学生との連携・情報交換・交流を活発に行う

以上、フェアトレード国際学生フォーラムの学生宣言とします。

2014年3月27日 フェアトレード国際学生フォーラム参加者一同

Student Declaration

We have had a many activities about Fair Trade.

Therefore we got a big students network all over Japan and got to be able to do various activities before.

As stated above, Fair Trade movement by students has very important roles in a promotion of Fair Trade.

We, Japanese students declare that we do some activities for promotion of FTU to become the Asia-first FTU.

We act the following in this way

- 1, We held national-scale meeting on the theme of FTU every year.
- 2, We held the event with the view of promoting FTU every year.
- 3, We have a lively relationship ,an exchange of information and exchange with the students of Asian region.

Concluded.

student declaration of fair trade international student forum.

Fair Trade International Student Forum all the participants March 27, 2014.

集合写真



編集後記

国際学生フォーラムを終え、改めてフェアトレードの重要性を再認識できた。そして多くの学生がフェアトレードを推進していく上での悩みや、疑問、葛藤を抱えていること、そしてそれらが共通していることも分かってきた。なによりこのフォーラムの効果は、フェアトレード大学の認知度向上だけでなく、学生にとって非常に勇気づけられたと思う。そんな勇気づけられた学生達の活動が近い将来、アジア初のフェアトレード大学を誕生させる日はそう遠くはないだろう。(F)

原稿・質問翻訳：船橋嘉一、品川めい、田中遼平

編集：国際学生フォーラム実行委員会

実行委員長 藤田勇樹

副実行委員長 佐藤素安

宮本真理 田中遼平 品川めい

誤字脱字はご了承ください。

報告書内でご不明な点、ご意見等ありましたら fairtrade0327.30@gmail.com までご連絡ください。